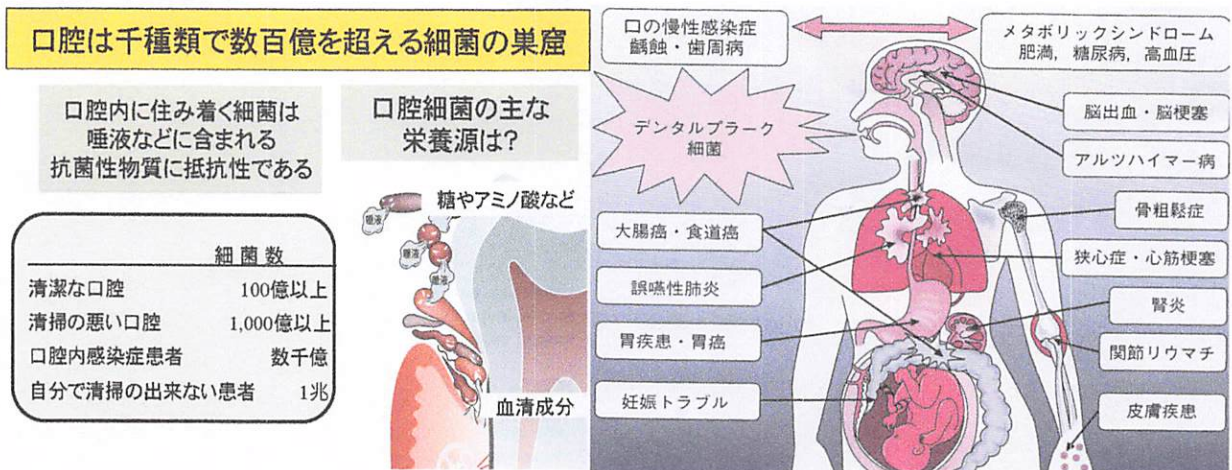


コロナ禍における歯科医療・口腔ケアの役割

東京歯科大学名誉教授 奥田 克爾

デンタルプラーク細菌は、数百種類の細菌がコミュニケーションを取りながらスクラムを組んでバイオフィームという牙城を築いているだけでなく、頻りに下気道や血流に入り込んで命さえ奪う史上最大の暗殺軍団である。デンタルプラーク細菌の主たる栄養源は、アミノ酸やグルコースが豊富な唾液や歯肉溝液である。デンタルプラーク細菌は、有病者や高齢者の下気道に流れ込んで毎日300人から500人もの命を奪う暗殺軍団であり、歯垢などと実態を表さない用語は使うべきでない。歯周ポケット内の嫌気性桿菌やスピロヘータなどの菌体や内毒素は、頻りに歯肉上皮を貫通し、血流に入り込んで血管内皮細胞に侵入し、マクロファージや脂肪細胞に結びつき動脈内皮プラーク形成してアテローム性動脈硬化をもたらす。歯周病は糖尿病の増悪因子であることが明白にされ、歯周治療によって血糖値の改善がみられることなどが系統的レビューとメタ解析で示された。さらに、口腔慢性感染症病原菌は脳出血や脳梗塞を起こし、アルツハイマー病の脳内、関節リウマチ、大腸がんや食道がんなどからも検出される。



治療薬やワクチンなど無い時代からインフルエンザパンデミックは、自然免疫と感染したことで獲得した免疫で生き残ってきた。現在、新型コロナウイルスパンデミックの中で、感染予防ワクチンの実現化までに with corona で生き抜くためには、歯科医療と口腔ケアによるオーラルヘルスが重要であることについて解説する。



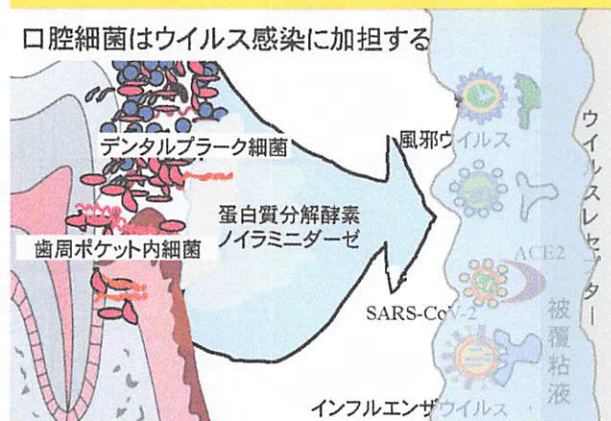
季節型インフルエンザウイルスは、主として上気道粘膜に吸着して侵入する。多くは高い発熱に伴って数日後に抗体産生などの免疫で治癒に向かう。A型の高病原性トリインフルエンザウイルスは、上気道粘膜だけでなく気管支や肺さらには肝臓細胞などに瞬く間に入り込んでしまう。A型の高病原性トリインフルエンザウイルスの感染した臓器では、感染細胞を死滅させてウイルス増殖を抑えようと、免疫細胞がさまざまなサイトカインを大量に放出するサイトカインストームが起きる。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の病原ウイルスに対して SARS-CoV-2 と命名された。SARS-CoV-2 は、鼻腔、咽頭粘膜、下気道粘膜、肺細胞、血管細胞、肝臓、消化器官などを標的とするだけでなく味蕾細胞や唾液腺細胞にも感染する。

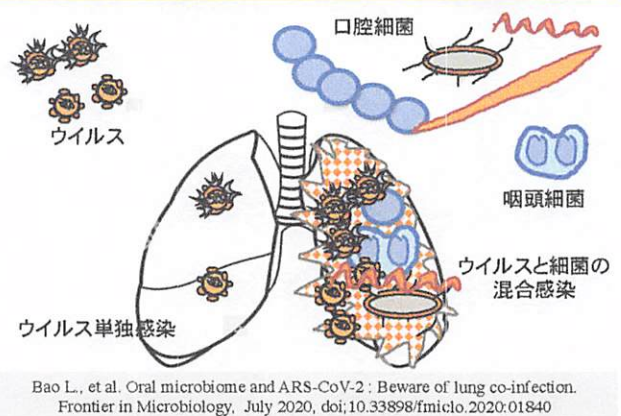
バイオフィームとなって棲み着いている細菌の産生するタンパク質分解酵素やノイラミニダーゼが上気道粘膜を保護しているタンパク質やシアル酸を分解し、ウイルスレセプターを露出させて、それらのウイルスの吸着を導く。また、産生される内毒素は粘膜細胞に毒性を発揮して、ウイルスの細胞侵入に加担する。したがって、口腔清掃を徹底して酵素の産生を抑えておけば、上気道粘膜への新型コロナウイルス、インフルエンザウイルス、風邪ウイルス感染のリスクを下げる。

With corona を生き抜くために、歯科医療と口腔ケアで維持されるオーラルヘルスこそ自然免疫を低下させないうえに、感染リスクを下げ重篤化させない役割を持つことを認識して取り組まなければならない。

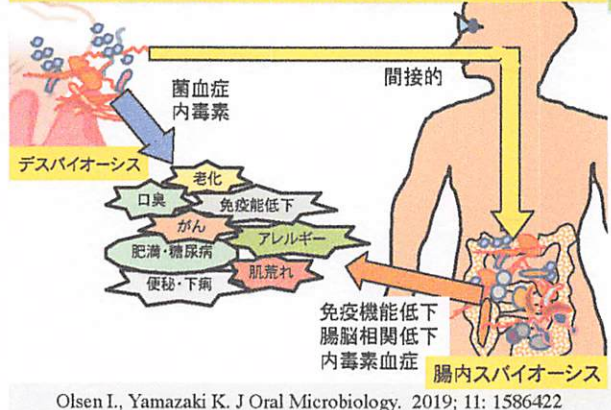
2. 口腔清掃習慣



口腔・咽頭細菌はウイルスと共演して肺炎を重篤にする



口腔デスバイオーシスがもたらす健康破綻



オーラルケアはウイルス性肺炎を抑える

